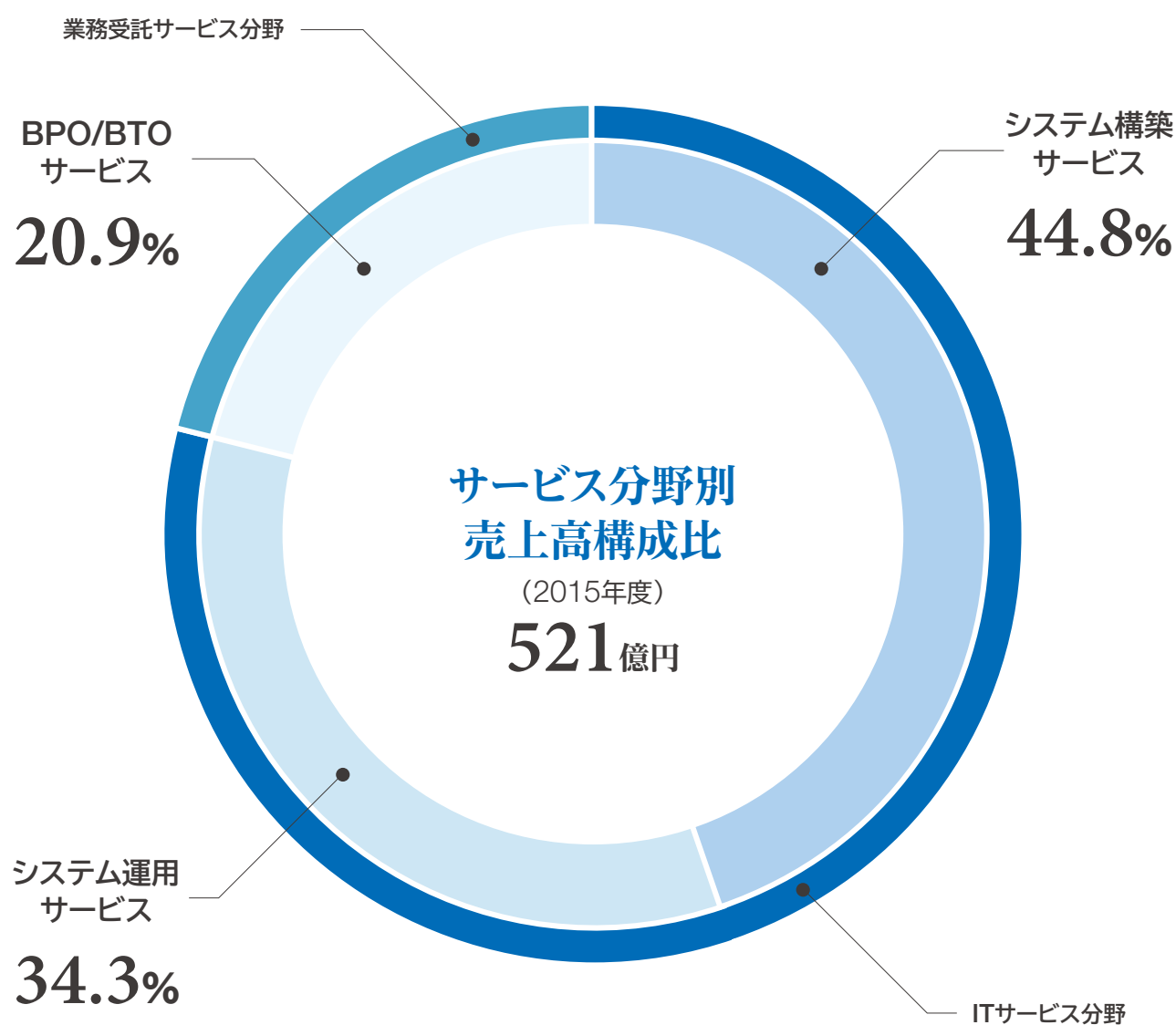


事業概況

CACグループの事業は、ITサービス分野として「システム構築サービス」「システム運用サービス」、ITと業務機能を合わせた業務受託サービス分野として「BPO／BTOサービス」を展開しています。

2015年度の通期連結業績は、売上高は前年度比4.1%増加の521億円、営業利益は前年度比62.1%減少の12億円、経常利益は前年度比64.0%減少の10億円、当期純利益は1億円の純損失(前年度は23億円の純利益)となりました。



リスク要因

- 各地域の政治・経済、為替、法的規制、社会的混乱など
- 開発工数の超過
- 特定顧客への依存度
- 災害などでのサービス中断
- 機密情報の漏えいなど

IT サービス分野

システム構築サービス

売上高構成比

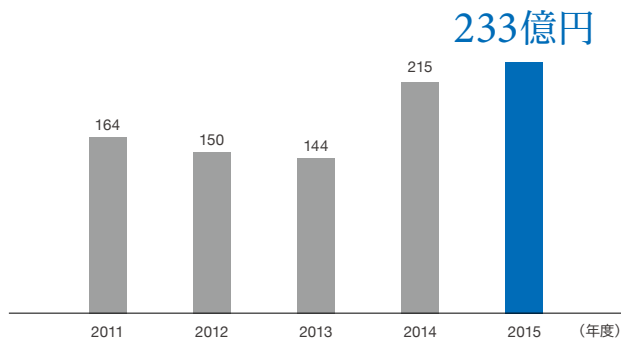
44.8%

(2015年度)

事業概要

国内外で、企業情報システムに関するコンサルティング、システム開発および保守、パッケージインテグレーションなどのサービスを提供しています。

売上高



業績について

2015年度は、メガバンク向けの大型案件や信託銀行向けシステム構築案件が拡大。また、円安による円換算額の影響で前年度比8.4%の増収となりましたが、海外子会社AFLでのコスト増加により営業利益は前年度比40.6%減と大幅に減少となりました。

価値創造に向けて

●グローバル案件の拡大

顧客企業のグローバル化に伴うIT投資の海外シフトを取り込み、グローバル案件の拡大を図ります。

●「AZAREA」の活用による差別化

独自の開発プラットフォーム「AZAREA」を活用し、開発品質の向上および効率化による差別化、高採算化を図ります。

●社会保障領域でのサービス拡大

介護分野におけるITサービスの提供に着手し、これまでの年金領域とともに「社会保障領域」のサービスを拡大させます。

強みと特徴

金融機関向けに強み

メガバンク向けの市場系、海外系システムや、信託銀行向けの年金関連システムに強みを持っています。

海外比率が高い

売上全体の約32%は海外売上。インド、シンガポール、中国、アメリカ、イギリスでサービスを展開。今後は、更に海外比率が高まると予想しています。

2016年度は、2015年度に売上増加に貢献したメガバンク向け案件は収束するものの、アジアを中心とした医療機関向けにITサービスを提供しているシンガポールのSierra Solutionsの新規連結や海外グループ会社の伸長、社会保障領域・ヘルスケア領域でのビジネス拡大などにより増収増益を見込んでいます。

●医療機関へのサービス提供

Sierra Solutionsを子会社化したことにより、医療機関へのサービス提供を拡大させます。

●ノウハウを活用したパッケージビジネスの強化

受託開発型ビジネスの将来的な需要減を見越し、蓄積した業務ノウハウを活かしたパッケージソフトの開発・提供を強化します。既に年金管理パッケージ「Micmari」や製薬企業向け営業支援システム「MR-Navi」などを開発・提供しています。

IT サービス分野

システム運用サービス

売上高構成比

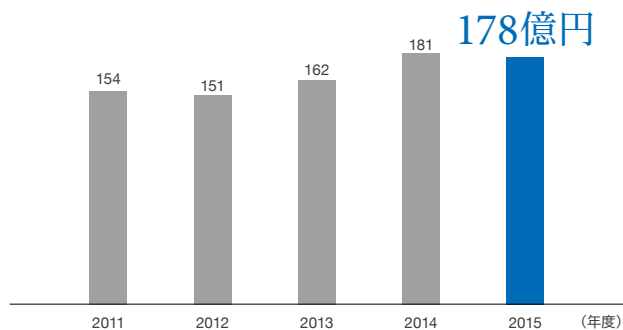
34.3%

(2015年度)

事業概要

運用アウトソーシングサービスのほか、データセンター、ヘルプデスク/コールセンター、セキュリティ関連、製品保証などのサービスを提供しています。

売上高



強みと特徴

大手製薬企業向けに提供

創業期に子会社だったアウトソーシング専門会社が当サービスの起源です。大手製薬企業もその会社へ出資しており、製薬企業へ総合的にサービスを提供しながらノウハウを蓄積してきました。

M&Aで拡大

グループ会社であるCAC マルハニチロシステムズ、CAC オルビス、シーエーシーナレッジ、アークシステムは、全てM&Aでグループ化してきました。

業績について

2015年度は、国内主要顧客向けの売上高が減少した影響で、前年度比1.3%の減収となりました。利益面については、海外子会社AFLの貸倒引当金等の計上が大きく影響し、1億87百万円の営業損失となりました。

2016年度は売上高については微増にとどまるものの、利益面については、前年の一時的な費用の計上がなくなることから、黒字回復すると見込んでいます。

価値創造に向けて

●運用ツールの整備による品質向上

今までは、ITILなどのグローバルスタンダードに準拠した運用を行うことにより、運用品質の向上を目指してきましたが、今後改めて運用ツールを整備し、高水準、かつ均一的な品質の提供を目指します。

●価格競争力を向上

運用ツールによる自動化の促進およびオフショアの活用を推進することで原価低減を図り、価格競争力を向上させます。

●安定的なサービス提供に向けて

お客様に安心して、安定的なサービスを利用いただけるよう、当社グループでは、情報セキュリティ国際規格 (ISMS) JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013) を取得しています。

●新しい運用サービス、メニューの開発

次々と登場する新技術への対応や、お客様の運用負荷・コスト軽減などを目指し、クラウドを活用した運用・管理サービスの開発など、新しい運用サービスやメニューの開発を強化しています。

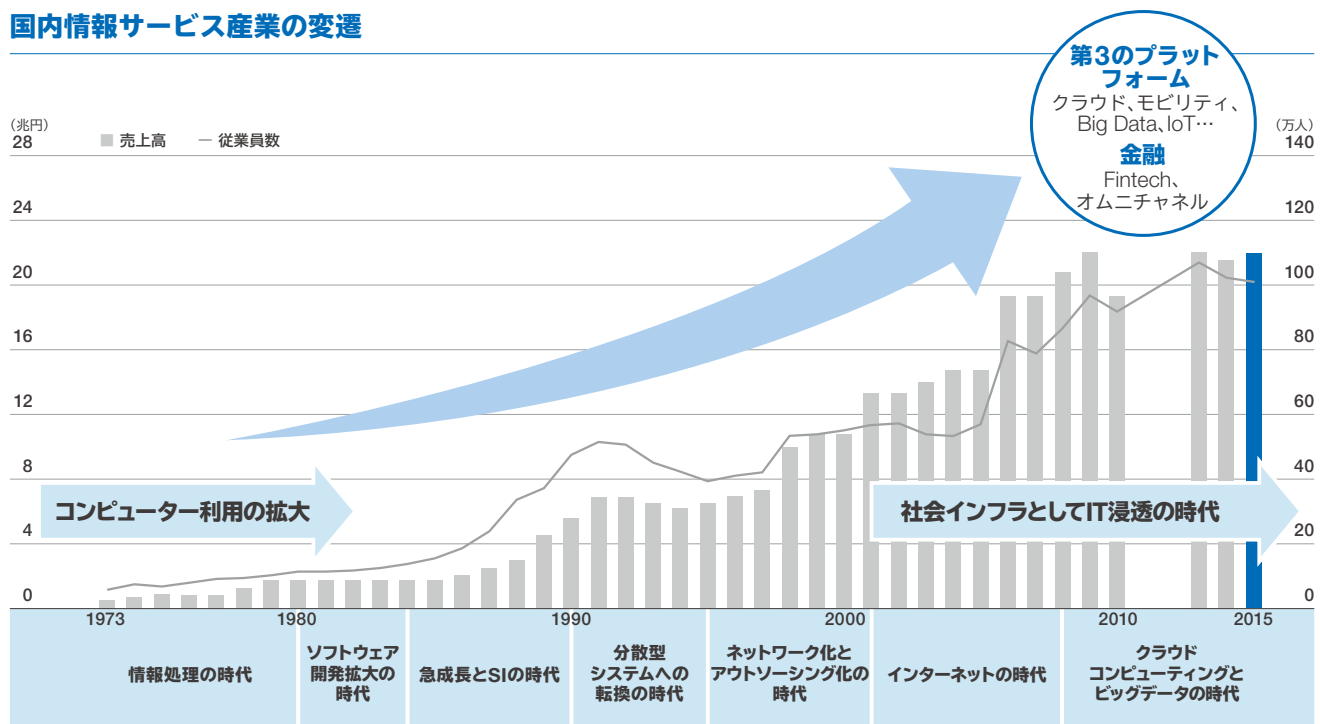
IT サービス分野の業界構造

ITサービス業界の動向

日本のITサービス市場は、金融分野のシステム更新やマイナンバー制度の導入などの大型案件がけん引し、2014/15年度ともに成長（IDC調べ※「年率3%」）。2016年度以降はこれら大型案件の収束で成長率は鈍化するも、クラウド、モビリティ、ビッグデータ、IoTなど「第3のプラットフォーム」関連の支出が原動力となり、2020年までに緩やかな成長が続くと予測（IDC調べ※「年率1.7%」）。産業別では、オムニチャネル化やFintech時代の決算ソリューション拡充といったサービス強化を目的に金融機関、特にメガバンクのIT支出の高い伸びが予想されています。

※IDCジャパン 「国内ITサービス市場 産業分野別予測、2016年～2020年」

国内情報サービス産業の変遷



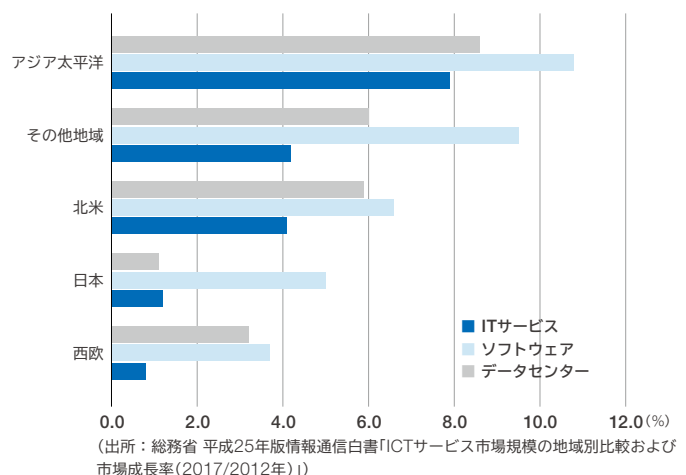
（出所：情報サービス産業協会（JISA）「情報サービス産業発展の経緯」<http://itjobgate.jisa.or.jp/trend/index.html>（参照：2016年5月）
経済産業省 特定サービス産業実態調査）

世界の地域別市場成長率

ITサービスの世界市場は、企業活動のグローバル化と情報通信システムの普及・拡大を背景に、年平均成長率（2012-2017年）5.2%のプラス成長で推移すると予測（総務省）。地域別では、アジア太平洋地域が8～11%前後、北米が4～7%の高い成長率が見込まれています。

CACグループは、金融・信託など特定分野に強い独立系として、国内における成長分野の需要を取り込むと共に、インドやアジアへの展開を挺に、海外における事業機会を開拓していきます。

地域別市場成長率（2017/2012年）



業務受託サービス分野

BPO/BTOサービス

売上高構成比

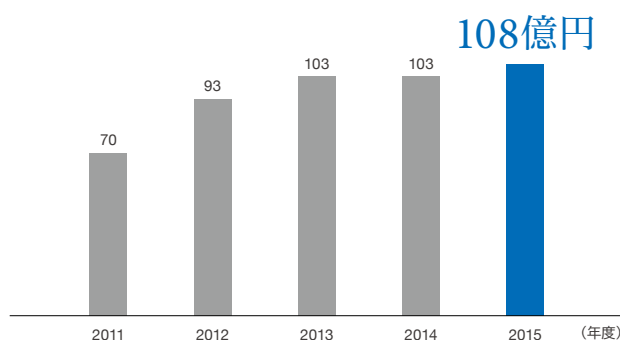
20.9%

(2015年度)

事業概要

ITと業務機能を併せた業務受託サービスの提供を行っています。
現在当社グループでは、CRO(医薬BTOサービス)と、人事BPOサービスを提供しています。

売上高



強みと特徴

CROは安全性情報管理に強み

CRO(医薬BTOサービス)では、医薬品開発の支援に必要な全てのメニューをラインナップしていますが、中でも、副作用に関する情報を管理する安全性情報管理に強いのが特徴です。

あらゆる人事業務を請け負える

人事BPOサービスは一般的な給与計算などの業務受託に加え、人事制度の運用や労務管理、福利厚生管理、その他人事業務の受託を行っています。

業績について

2015年度は、CRO(医薬BTOサービス)は増収であったものの、人事BPOサービスが減収となったため、全体では前年度比4.8%増にとどまりました。利益面においては、CRO(医薬BTOサービス)でプロジェクト開始の遅れに伴う不稼働損により、前年度比62.8%減となりました。

2016年度は、人事BPOサービス、CRO(医薬BTOサービス)ともに拡大を見込んでいます。また、CRO(医薬BTOサービス)においては、連結子会社合併による要員の適性配置を含め、効率化、高採算化を図ってまいります。

価値創造に向けて

●M&Aとアライアンスでグローバル化対応を加速

CRO(医薬BTOサービス)においては、国際共同治験が全体の治験数の約3割[※]になり、今後も増加すると見込まれているため、グローバル水準に即した品質標準の提供が必須です。M&Aとアライアンスでグローバル化対応を加速させます。

●新たな事業開発と品質向上に取り組む

多様化する顧客のニーズに対応すべく、新たな事業の開発や、ITを活用した更なる品質の向上および効率化に取り組めます。

●グループ再編によりサービス提供力を強化

2016年4月、当社グループでCRO(医薬BTO)事業を行う2社が合併し、CACクロアが誕生しました。

非臨床から製造販売後調査、安全性情報管理までITを駆使したデータ関連の支援サービスと、高度なノウハウを有するモニタリングサービスが合わさることで、CRO(医薬BTOサービス)の全メニューをカバーすることになります。これにより、多様化する顧客ニーズへの対応強化を図ります。また、ITの更なる活用、人材育成の強化などにより、更なる品質・効率・安全性の向上、グローバル治験への対応などを加速させ、業務拡大を図ります。

※厚生労働省 医薬品等の審査及び治験に関する最近の動向について(平成27年度)「薬物の国際共同治験の届出推移」より

業務受託サービス分野の業界構造

CRO業界とCACグループのポジション

CRO（Contract Research Organization：医薬品開発支援：当社では医薬BTOサービスとして提供）は、医薬品の開発効率を高め、より早く新しい薬を生み出すために臨床試験、製造販売後調査における様々な業務を代行・サポートする事業です。CACグループでは、1990年頃からCRO事業を開始し、現在では、2016年4月に発足したCACクロアが中心となり展開しています。

CRO事業のフロー



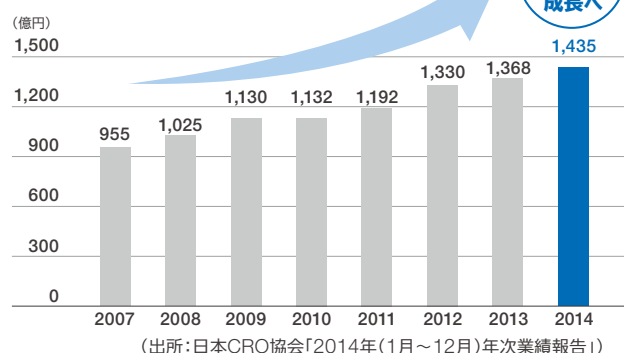
※CTD：日米EU3極共通の医薬品承認申請様式（Common Technical Document）

CRO市場動向

CRO市場動向は、製薬企業が治験コストの削減、効率化の推進のため業務のアウトソーシングを促進していることから、今後も年率+5%程度の成長が見込まれています。

世界的にも、製薬企業やバイオ医薬品企業が研究開発業務を外部に委託する傾向が高まっており、グローバルCRO市場は年率10%程度での拡大が予測されています。

日本CRO協会 会員総売上高推移



CRO国内業界と当社グループのポジション

CRO専業から発展した企業が業界の大半を占める中、CACクロアは、IT起源の特色あるサービスベンダーとして顧客のシステム構築・運用と共に医薬品開発プロセスの業務受託を提供しています。シミック株式会社やイーピーエス株式会社などの業界

最大手グループを追う国内準大手に位置しています。近年は、国際共同治験の増加に伴い、外資系CRO企業の日本参入も増えているため、グローバル企業との提携なども模索しながら拡大を目指します。